

伊東市立幼稚園・保育園のあり方検討委員会中間報告

1 委員会開催経過

(1) 令和2年10月27日開催

伊東市立幼稚園・保育園の市内配置状況、園児数、施設の現状などを説明し、早急な立案が望まれる宇佐美地区に絞り、今後の適切な配置について検討した。

(2) 令和3年1月13日開催

子ども・子育て支援事業計画を基本として、地区ごとの幼稚園、保育園の施設配置を検討した。

2 委員会の主な意見

- ・ 宇佐美地区における配置については、宇佐美臨海テニス場跡地を建設候補地とすることは、津波浸水域であり線路の上にすべきである。宇佐美臨海テニス場跡地は遺跡調査に時間を要する。
- ・ 市全域で子どもが減少する中で、宇佐美地区のみ新設にするのはどうか、市の拠点はどこにおくか、市内全域とのバランスにも配慮すべきである。
- ・ 子ども・子育て支援事業計画の地区にとらわれず、必要な場所への施設整備が必要。
- ・ 学校統廃合にも絡めて園の配置先を考えていくのなら、例えば幼保小中一貫教育といった構想なども含めて、教育総務課、教育指導課、幼児教育課が話し合いの機会を持つべきである。
- ・ 幼稚園と保育園現場での話し合いを行い、お互いの意見のすり合わせ、教育委員会としての意見が必要である。
- ・ 保護者同伴による登降園を必要とする園児のためにスクールバス等の検討が必要である。
- ・ 地域子育て支援センター等の検討も必要となるため、幼稚園、保育園のあり方に加えて検討が必要である。

など

3 早急な課題

教育委員会における幼稚園、保育園現場の明確な方向性の決定及び幼保小中のつながりを踏まえた適正な施設配置の検討。

以上